

航空輸送の安全にかかわる情報の中間報告（平成 22 年度上半期）（要約版）

1. 航空事故・重大インシデントの発生の概況

平成 22 年度上半期においては、本邦航空運送事業者の運航に伴って航空事故は発生していないが、以下の重大インシデントが発生。

○ 航空事故（0 件）

○ 重大インシデント（2 件）

・平成 22 年 6 月 11 日、日本貨物航空機（B747-400F 型）は成田国際空港を離陸したが、直後に第 1 エンジンに振動が発生したため当該エンジンを停止して引き返し、同空港に着陸した。

・平成 22 年 8 月 15 日、日本航空インターナショナル機（MD-90-30 型）は仙台空港を離陸したが、直後に第 2 エンジンに火災が発生したことを示す計器表示があったため消火装置を作動させた後、当該エンジンを停止し航空交通管制上の優先権を要請の上、同空港に着陸した。

2. 航空法第 111 条の 4 の規定による報告の概況

平成 22 年度上半期においては、本邦航空運送事業者から、航空事故 0 件、重大インシデント 2 件及び安全上のトラブル 347 件の合計 349 件について報告。

表 1：事業者別報告件数

JAL グループ	ANA グループ	日本貨物 航空	スカイマーク	北海道 国際航空	スカイネット アジア航空	スターフライヤー	その他	計
119	106	15	46	13	17	11	22	349

表 2：機種別報告件数

B737 (在来)	B737 (NG)	B747 -400	B767	B777	A300 -600	A320	DC-9	DHC-8 (-400 除く)	DHC-8 -400	CRJ	ERJ 170	SAAB 340B	その他	計
37	66	32	71	38	9	17	13	6	20	18	8	6	8	349

表3：安全上のトラブルの内容別分類件数^{注1)}

機材 不具合	ヒューマンエラー						回避操作		鳥等の外来物 による損傷	被雷	その他	計
	運航	客室	整備	地上 作業	設計 製造	その他	TCAS ^{注2)}	GPWS ^{注3)}				
175	26	2	7	0	2	1	103	6	11	10	4	347
	38						109					

注1) 分類別の件数は、今後の要因分析の進捗により変更されることがある。

注2) 航空機衝突防止装置の回避指示に基づく回避操作を表す。

注3) 対地接近警報装置の指示に基づく回避操作を表す。

3. 安全上のトラブルの評価・分析と今後の対策

平成22年12月8日に開催された第8回航空安全情報分析委員会において、平成22年度上半期に報告された安全上のトラブル等について審議した結果、関係者により必要な対応がとられており、引き続き適切にフォローアップを行っていくべきことが確認されました。

また、今後とも、前回の第7回航空安全情報分析委員会（平成22年6月29日開催）において「安全性向上に向けた今後の取り組み」として確認されたとおり、安全上のトラブル等の情報等の分析に基づく機材不具合対応等を継続するとともに、航空安全情報管理・提供システム（ASIMS システム）を用いた予防的安全対策の充実、安全監査等を通じた監視・監督の強化及びヒューマンエラー防止対策の推進等の取り組みを促進する必要があるとの評価を受けています。